

学生発の地域情報番組「多摩探検隊」

i-podに番組配信

FLPジャーナリズムプログラム、松野良一教授ゼミの学生が運営する番組「多摩探検隊」が5月からポッドキャストイング（映像配信）とマップサービスを開始した。

今年で2周年を迎えた「多摩探検隊」は、10分間

の地域情報番組で多摩地域のケーブルテレビ5局（多摩テレビ、日野ケーブルテレビ、八王子テレメディア、多摩ケーブルネットワーク、マイテレビ）でレギュラー放送されている。同時に、ネット上のウェブサイトでも動画配信を行っている。



ウェブページ (<http://www.tamatan.tv>)

モットーは、東京キー局が扱わない多摩地域に埋もれている話題・人物・物語を掘り起こし、それにまつわる感動を伝える

ていこうというものだ。6月放送分では、多摩に生息する野生のムササビを取り上げている。担当したディレクターの平澤恵梨（総合政策学部2年）さんは、

「野生のムササビをカメラに撮るは本当に大変でした。でも、番組が完成した時は本当にうれしかった。おススメはムササビの飛ぶカットですね」と、仕上がりに自信満々だ。

「企画・取材・撮影・編集・パッケージ化」の全てを学生が行っているため、苦労も多いらしい。制作プロデューサーの藤井智子（法学部3年）さんはこう語る。「公共の電波に番組を流すので、いい加減なもの作れません。学生だから、

は言い訳になりません。でも、だからこそ2年間もの間続けることができたんだと思います」

大学生がケーブルテレビ5局でレギュラー番組を持つということも全国で唯一だが、2周年を迎えることも全国で初めて。

「多摩探検隊」のような市民メディアは、市民自身が情報発信することで地域活性化につながることを期待されている。

今回のポッドキャストイングの開始により、i-podに動画ファイルを取り込むことで「多摩探検隊」をいつでもどこでも見るのが可能になった。さらに、撮影に行った場所を地図上で表示する「多摩探検隊撮りマップサービス」を開始し、番組と地図の合体により新



風景撮影のダネ街

たな情報発行の土台を作り、地域活性化やコミュニケーションへとつなげることを目指している。Web2.0プロジェクトリーダーの森友香梨（総合政策学部3年）さんは、

「ポッドキャストイングとマップサービスの開始は、より多くの人に視聴してもらえるチャンスが増えただけでなく、地域の人々との新たなコミュニケーションを提供することができる」と



絵を手にも、西麻衣子さん（左）と曲田統助教授

「思います」と語る。今後は日本だけでなく外国の携帯サイトにも配信を検討しており、世界中の人

「多摩探検隊」(http://www.tamatan.tv)にアクセス！
（学生記者 中島聡 総合政策学部2年）

評判の本誌春季号の表紙絵 文3の画家から曲田統助法学部助教授に「贈呈」

ぶらんこが揺れる。少女の笑顔が揺れる。愛らしく、青い空に溶けこむように――

――『Hakumonちゅうおう』06年春季号の表紙絵（「IN THE SKY」の原画（油絵）が、作者

西麻衣子さんから曲田統助法学部助教授に贈られた。〈あの表紙の絵、本当に素敵だなあと感じています。子供の純真さ・無邪気さが、輝くように伝わってきます。子持ち

の親として、気持ちがあっても温かくなります。いい作品に出会えたことに感謝しています。そんなメールが広報課・編集室に届いたのは5月半ばだった。差し出し人は、曲田助教授。日を改めて、二仲、三仲。〈自分の3歳の娘の姿と重ね合わせたからかもしれない〉と、思いががつづられ、〈たいへん図々しいお願いなのですが、その絵を譲って頂くことはできないものかと……〉と書かれていた。発行直後から、あちこちで「絵がかわいい」と評判が高かったものの、それと

は「思いの丈」が違うようなメールである。編集室でブリッジして西さんの意向を聞くと、「喜んで、差し上げます」というメールが返ってきた。転送した曲田メールを読んで――。〈あの絵を本当に気に入っていただけなのに、だということがひしひしと伝わってきて、とても嬉しくなりました。（先生のメールは）私の宝物として、「永久保存」させていたかどうかと思います。おふたりの顔合わせは5月25日。

「無垢、純真さ……透き通る明るさ、というのかな。輝きがあふれてきて、豊かなものを感じさせる広がりがありますね。『Hakumonちゅうおう』は読んでからまあ整理するのですが、春号は家にもって帰ったんですよ。妻も一目見て、いい絵だわ、と感激しましたね。」

助教授の言葉に、「写生ではなく、小さいころを思い浮かべて描きました。油絵は2作目なんです。そんなにもほめていただいて、もつたないような気持ちです」と、恐縮したような様子の西さん。

1号館4階のロビーで、楽しい会話を交わしながら、絵が贈られた。

「絵をいただくという話は妻にはしていません。びつくりすると思いますよ」と、刑法が専門の助教授も、この日は「家庭人」の表情で終始につこりだった。

西さんは、「美術倶楽部CATS」の部長をつとめている。

「『画家冥利』に尽きるでしょう」と水を向けたら、すこし照れたようにして「そうですね。とても大きな励みになりました」と明るくほえんだ。